

2024年度大阪府訪問看護実践研修

教育ステーション事業 事業実績報告書

豊能ブロック

訪問看護ステーションおえかき

【目標設定】

- ①多職種向けACP研修を成功させ、地域での定着を促進する
- ②府民に訪問看護ステーションの役割を周知し、訪問看護の活性化を図る
- ③病院と在宅医療の連携促進のために訪問看護研修事業を積極的に行う

【実践内容】

① 研修事業

2024年7月13日（土） ACP支援実践人材育成研修（吹田文化会館メイシアター）
参加者50名（申込52名） 看護師27名 ケアマネージャー14名 介護職員4名
セラピスト4名



● 研修事業全体を通しての気づき(効果や課題など)

- ・司会進行は参加者の意見を取り入れながら進行できた。
- ・グループ分け・タイムスケジュールに沿って進行を事前に確認できていたため、参加者誘導を含め上手くいった。
- ・グループワークを通じて、それぞれの立場を理解出来るいい機会になった。

気持ちを引き出すには、しっかりと傾聴する姿勢と場の雰囲気作りが大切。改めてAPCの実践が現場で必要であると実感できた。

【課題】

裏方は課題が残った。全体の記録、管理の担当が決まっておらず具体的な紙おこしに苦労した。

→事前に必要な事も、周知受けてない可能性があった。

今後の研修を研修をより良いものにしていくためにも、次のグループへの共有が大切。研修を遂行しやすい仕組み作りが欠けていると感じた。

②研修事業 府民への相談支援事業

I .脱水と熱中症対策、血流を促す体操(タオル体操)

2024年7月6日 豊能地区 豊二地区公民館

会場収容人数25人 参加者15人

II .物忘れと認知症の違いについて

2024年10月26日 吹田市 豊二地区公民館

会場収容人数25人 参加者25人



● 研修事業全体を通しての気づき(効果や課題など)

- ・ 訪問看護についての見識は比較的あった印象。ただ、名称のみの認識。

⇒ アンケート結果を見ると、訪問看護への興味関心が高まる機会を提供できる場になったと思われる。

- ・ テレビで話している内容と、直接看護師が話す内容とでは説得力や影響力の違いを感じたとの感想

⇒ 改めて地域と交流していく意義を感じた。感染症の波及もバランスを見ながら、どのような形で継続していけるかの課題は残る。

- ・ 府民相談を2回開催し、興味あるテーマだったため参加人数も多かった。講義が終わった後も個別質問も多く、訪問看護ステーションとして府民の健康推進について関わる方法は多岐にわたると感じた。

③訪問看護体験研修事業

1 看護業務

【研修プログラム】

8:45 朝のミーティング

9:30 オリエンテーション、訪問看護の対象者・内容・システム・訪問バッグについての説明

11:00 同行訪問

12:00 休憩

13:00 事業所内カンファレンス見学

13:30 同行訪問

16:00 振り返り

17:00 帰宅

【目標回数・実績(対象の詳細)】

目標回数 8回 実績 5回

高校生 1回

新規立ち上げたばかりの訪問看護師管理者 1回

クリニック勤務の看護師 1回

総合病院ICU勤務看護師 1回

2 管理業務

【研修プログラム】

8:45 朝のミーティング参加

9:30 オリエンテーション、訪問看護の対象者・内容・システム・訪問バッグの説明

10:00 管理業務についての講義、スタッフ管理、訪問シフト、保険制度、スタッフ教育、レセプト業務、地域連携

12:00 休憩

13:00 事業所内カンファレンス見学

14:00 退院時カンファレンス、サービス担当者会議、地域ケア会議棟見学、管理業務について
講義

16:00 振り返り

17:00 帰宅

【目標回数・実績(対象の詳細)】

目標回数 1回 実績 1回

新規訪問看護ステーション管理者

3日間の研修であったが時短であったために1回とさせていただいた。

● 訪問看護体験研修事業全体を通しての気づき(効果や課題など)

- ・利用される方の疾患だけでなく生活背景や生活歴などを考慮して情報収集を行い、アセスメントをしてケアを行っている実際に体験された。他事業所と連携しながら一人の方を支えていることも理解されていた。各ステーションの特徴を知ることができた様子。
- ・申し送り、ICTを活用していることで情報共有を行い迅速にできることも学べた様子。
- ・目標がしっかりとしている方は学びが大きい印象だったが、学びの個人差が大きく、研修前のオリエンテーションで個々の学びたいことを具現化する必要を感じた。

④電話FAX相談 Q&A事業

【受付曜日や時間・広報方法。担当者】

受付曜日・時間 月曜日～金曜日(9:00～16:00)

ステーション協会でのホームページ、吹田介護支援連絡会でのパンフレット配布、新規事業所への広報

【目標回数・実績・相談内容まとめ】

目標回数 10件 実績 35件

6月介護請求、診療報酬改定に当たっての相談が多くみられた。

理学療法士等による訪問看護の適正化の算定条件の問い合わせが2件、ベースアップ加算の問い合わせが2件あった。

その後は加算の事や精神の算定のことなど報酬関係や指示書に関する問い合わせが多く、人材育成や実務内容、小児関係、看多機・定期巡回関連の問い合わせは少なかった。

● 電話相談事業全体を通しての気づき(効果や課題など)

参考文献を調べたら解決できそうな問い合わせもあったが、介護報酬、診療報酬改定の際に参考となる文献がなく、訪問看護ステーション協会での報酬改定の講演がとても役に立った。

7月以降は文献や厚生省のホームページなどで調べながら回答していった。

新規事業の方で重要事項書き方がわからない方や、報酬の計算方法がわからないといったものがあり、ひな形がなければ困難の状況がうかがえた。

今回教育ステーションの相談事業で相談される側も改めて気づくこともあり大変勉強になった。

【地域における協力体制（協カステーション）について】

【協カステーションの数】 9か所

【協カステーション名・所在地・役割やサポートの内容等】

ももの木訪問看護ステーション(豊中市:研修、電話相談)・アーチ訪問看護ステーション(豊中市:研修、電話相談)・かなでるリハビリ訪問看護ステーション(吹田市:研修)・リード訪問看護ステーション(吹田市)・きずな訪問看護ステーション(吹田市:研修)・えのき訪問看護ステーション(吹田市)・フリーステーション訪問看護ステーション(池田市:研修)・訪問看護ステーションアールドビートル(箕面市:研修)・CIL訪問看護ステーション(豊中市:訪問看護体験研修)

【協カナーズの数】 2名

【協カナーズ名・所属・資格・サポート内容】

三輪真由美(リード訪問看護ステーション・訪問看護認定看護師)

赤崎増美(ももの木訪問看護ステーション・皮膚排泄ケア認定看護師)

●地域(ブロック)における協力体制についての気づき(効果や課題など)

ACP研修の際には、ファシリテーターの役及び集客の協力を得ることができた。
同じ豊能ブロックの教育ステーションも研修の際にも、集客の協力を得ることができた。
訪問看護体験研修では、それぞれの目的に応じた内容を実践されているステーションに依頼し、受諾された。

Q&Aでは回答した内容を協カステーションに確認することができた。

【設定した目標(1貢項目2)】の評価

ACP研修は目標人数にも達し、包括システムを巻き込んだ今回の研修はそれぞれの立場での成果を上げることができた。

府民の方々に訪問看護を知ってもらい、身近に相談できる場所と認識する機会が持てた。

基本的な看護は変わらないが、生活を踏まえたうえでの看護であり、看護の奥行きを感じたという感想が多く聞けた。

【教育ステーション事業全体の効果と次年度の課題について】

この1年間の関わりで、個々のステーションが協力し、横の繋がりを持って発展していけると感じた。

また、母体が違っても看護に対する想いは同じであると実感できる良い機会になった。

改善方法としては、1年で済ませるのではなく次年度に引き継ぐ形にしないと、具体的なモデルケースの情報量が少ないことや、時間的拘束があるため負担について感じる場面が多かった。